

ロノ津港 地方港湾

ロノ津港は、島原半島の南先端部に位置し、三方を丘陵に囲まれた天然の良港です。昭和41年より鬼池港との間に定期フェリーが就航しており、県南部における海の玄関口として重要な役割を果たしてきました。

平成26年より旅客ターミナルの再編を行っており、令和2年にターミナルビル及びフェリー用浮棧橋等が完成しました。また、同年に「みなとオアシスくちのつ」に指定されており、賑わいの中心として地域の活性化に貢献しています。



取扱貨物量の推移



位置

港勢(2020年)

入港船舶隻数	0.4万隻
総トン数	211万トン
海上出入貨物	92万トン
船舶乗降人員	2.4万人

定期航路

ロノ津～鬼池(熊本)	
片道	9.0km 所要時間
ロノ津—鬼池 0時間30分	

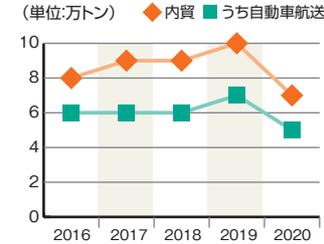
青方港 地方港湾 (特定地域振興重要港湾)

青方港は、五島列島中通り島の西岸に位置した天然の良港です。博多港・福江港との間に定期フェリーが就航しており、上五島地区における海上輸送拠点、水産物生産拠点として重要な役割を担っています。

また、国内外の大型観光船も寄港しており、地域の観光拠点として活躍しています。令和2年には、釣りによる地域の活性化を目的とする「釣り文化振興モデル港」に指定され、観光振興による地域活性化への更なる貢献が期待されます。



取扱貨物量の推移



位置

港勢(2020年)

入港船舶隻数	0.5万隻
総トン数	124万トン
海上出入貨物	7.1万トン
船舶乗降人員	1.4万人

定期航路

博多～青方～福江	
片道	238.8km 所要時間
青方—博多 5時間40分	
青方—福江 2時間10分	

瀬戸港 地方港湾

瀬戸港は、西彼杵半島の西側中央部に位置し、古くは長崎、佐世保、平戸間の中間港及び西彼杵半島外海の避難泊地として知られ、松島に炭鉱があった明治から昭和の始めにかけては、石炭積みの船が順番を待って停泊していました。

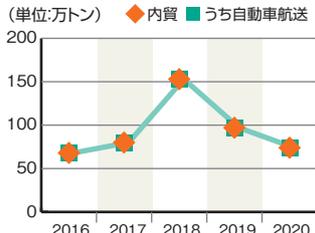
現在は、西彼杵半島沿岸の島々や佐世保港を結ぶ生活航路の中心的な位置にあり、地域住民の足として安定した海上交通を提供しています。



位置



取扱貨物量の推移



港勢(2020年)

入港船舶隻数	1.4万隻
総トン数	226万トン
海上出入貨物	74万トン
船舶乗降人員	40万人

定期航路

佐世保～瀬戸～神ノ浦	
片道	56.0km 所要時間
瀬戸—佐世保 0時間45分	
瀬戸—神ノ浦 0時間20分	
松島～瀬戸～神ノ浦	
片道	17.2km 所要時間
瀬戸—松島 0時間30分	
瀬戸—神ノ浦 1時間00分	
瀬戸～松島	
片道	2.3km 所要時間
瀬戸—松島 0時間15分	